

かまだ



揮毫 伊藤茂男氏

鎌田地区	
平成29年9月1日現在	
世帯数	8,824 戸
男	9,901 人
女	9,510 人
発行所	鎌田地区公民館 公民館報編集委員会

井川城跡国史跡指定 記念講演会を開催

井川城跡の姿や守護、武士の館などについて学ぶため「井川館―中世武士の居館」と題し、記念講演会が8月27日(日)、鎌田地区公民館で開催され、100名を超える地区内外の参加者が、2時間にわたり熱心に聞き入りました。

まず、竹原学氏(教育委員会文化財課)から「小笠原氏の居館・井川城を掘る」として、発掘で明らかになった井川館の状況や室町時代に信濃国守護であった小笠原氏の話をお聞きしました。史跡は、室町から戦国時代

井川城跡からの出土品



笹塔婆



漆器椀(鶴の絵柄)

発掘による館跡は守護にふさわしい規模で、方形の館と大型ダンブ600台分もの土を盛り上げた土壇があり、川と堀で周囲を囲んだ湿地

帯の沼城でした。武家の暮らしぶりを物語る中国陶磁器の威信財や座敷飾り、茶道具や基石などさまざまな出土品の一部も会場に展示され、見る事ができました。



次いで、中世の城館跡に造詣が深い水澤幸一氏(新潟県胎内市教育委員会)から、「中世後期の平地城館(方形居館)―武士はどんな館に住んでいたか―」についてお話しいただきました。

胎内市を中心とした中世の広大な荘園・奥山荘にある中条氏の本拠地「江上館」の様相をはじめ中世後期の各地の平地城館の特徴と、福井県の朝倉館「將軍御成プログラム」に見る豪華な宴会内容や杵形座敷の飾り、出土品からみた武士の生活など興味深くお聞きしました。

なお、江上館復元整備と隣接の奥山荘歴史史館の活用状況もご紹介いただき、貴重な井川城の史跡を鎌田地域全体の宝物として護り、活用方法を考える事ができたと思います。

「災害は必ずやってくる!」

国の地震調査研究推進本部の発表(平成27年4月)によると、糸魚川―静岡構造線断層帯の長野県中北部区間(安曇野市明科)諏訪湖南方の地震発生予測は、今後30年間に最大M7.6程度で、確率は13〜30%としています。そこで「いつどこでも起こりうる災害に備え、大切なのは心構えと準備」についてお話ししましょう。



「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていますが、最近これを「災害は必ずやってくる」に言い換えるほど、各地で甚大な被害を及ぼした災害が発生しています。

各地区や町会では、自主防災組織に基づいて防災訓練や避難訓練が行われ、いざという時に慌てないよう備えていると思います。

●対策が大事。災害が起きてからでは手遅れ
家屋の倒壊は多くの人的被害を起こします。また、家具などの転倒により負傷したり、避難口が塞がれて脱出が困難になったりします。

●住宅の耐震や家具類の転倒防止、窓ガラスの飛散防止などの対策をしておきましょう。

●避難時の心得があれば、安全な危機回避が可能
身の守り方・応急手当の方法。防災用具・避難用具・備蓄食料・医薬品の保管場所。避難場所・避難経路・連絡方法。持出し品の役割分担など家族で話し合い、確認しておきましょう。

●災害時には、ご近所の底力が重要
避難する時は、先ず自分や家族の安否を確認して町会で決めている一時集合場所に集まります。同時にご近所の安否も確認し、被災者がいれば助け合い救助します(自助・共助)。その後、市指定の避難場所・避難所へ移動し、避難所運営委員会の指示に従って行動します。

◆鎌田地区では、西部体育館・鎌田小・中学校・開明小学校・信明中学校・鎌田地区公民館が避難所に指定されています。それぞれ避難所運営委員会が準備会を開催され、避難所開設時の運営に問題が無いよう、準備が始まっています。

竹笛 (初音) づくり (子ども会育成会主催) 8/8



小学生を対象とした竹笛づくり講座を公民館大会議室で初めて開催しました。昔の遊びや文化、伝統を学ぶことが目的で、講師の松本捷幸氏(両島)の説明を聞きながら、参加した約20人の小学生が楽しく交流し、一人ひとりオリジナルの作品を作りました。

参加者からは「ナイフを使って竹を割くのがうまく出来るか不安だったが、最後にちゃんと音が出てよかった」などの感想がありました。最近ではナイフを使ったことがない子どもも多く、貴重な体験だったようです。



高齢者体験 (鎌田児童センター) 7/26

社会福祉協議会の職員から説明を聞きながら車いす体験や重りのついた衣服を着て歩く疑似高齢者体験をしました。



自然と遊ぼう in 朝日村 (子ども会育成会主催) 8/19

イワナのつかみ取り、スイカ割り、ドラム缶風呂で楽しみました。

夏、遊ぼう・学ぶ・体験する 鎌田の子どもたち



鎌田中学校 1年生乗鞍登山 7/19



地域の登山愛好家など6名がボランティアとして初めて同行しました。



児童センター夏まつり (高宮 8/9・鎌田 8/22)

子どもたちが企画・準備したゲームで楽しく遊びました。



雑感

テレビを見ていて場所のわからない地名が出てきた時、すぐに調べられるように、テレビの横に地図帳を数冊置いてある。子どもが小学生の頃からのことだが、年を経て、最近使うのは私だけだ▼世の中の動きに伴って、地図はどんどん変わる。平成の大合併でも多くの変化があったが、学生の頃の記憶が曖昧になっていることもあり、最新版の地図帳は重宝している▼先日そこに、市立博物館が発行した『松本旧町名標識の位置と町名のいわれが一覧できる優れものだ。実際に現地に足を運んでみると感じることも多い▼鎌田地区は、市内でも一番の世帯数と人口を誇る地域になったと聞く。ここを終の棲家とされるか否かは別として、生活の基盤となる地域の文化や今に関心を持ち、「おらが街」で暮らす仲間としての意識が持ち合えるようになったならば、きっと、住みよい街になるだろう▼5月から編集委員に加えていただいた。地域の文化や今をお伝えし、多くのみなさんに楽しんでいただける館報を目指して努力していきたい。(小山 淳)